



〈編集・発行〉
独立行政法人 国立病院機構
奈良医療センター
<https://nara.hosp.go.jp/>

りえぞん

Liaison

vol.59

独立行政法人国立病院機構 奈良医療センター

令和7年1月

医療関係者の皆様へ 「りえぞん」(Liaison)とは、フランス語で「連携・つなぐ」といった意味をもちます。
奈良医療センターは、地域の医療機関との連携を深め地域医療の推進に努めていきたいという思いで名付けました。

病院理念

私たちは、質の高い医療を提供し、地域の皆様の健康を支援することにより、信頼される病院を目指します
患者第一、安心安全な先進医療を提供します

令和7年度 病院目標

呼吸器疾患と神経疾患を中心とした
「面倒見のいい病院」の機能を高める



Contents

- | | | | |
|--------------------|---|-----------------------|---|
| ● 新年のご挨拶 (院長 永田 清) | 2 | ● 国立病院機構総合医学会 | 6 |
| ● 部門紹介ー放射線科 | 4 | ● クリスマスコンサート | 7 |
| ● ふれあい祭り | 5 | ● 連携施設のご紹介コーナー VOL.21 | 8 |

新年のご挨拶

院長 永田 清



2025年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

ここ数年、医療界はコロナ感染症に翻弄され続けていましたが、昨年ぐらいからようやくその影響も少なくなり、マスクを外して街を歩けるようになってきました。コロナに気を取られている間に世の中はこれまでの常識では考えられないような変化をしつつあります。まず、地球規模では、気候変動が著しく、温暖化が進行して災害につながるような異常気象が頻繁に起こっています。日本でも線状降水帯などという以前には聞いたことがなかった豪雨にみまわれるようになりました。医療界からは、大きな被害が出るたびにそれぞれの地域に向けて救援のための医療チームが出動しています。世界の動きの中では、超大国が隣国に領土拡張を目的に攻め入って核兵器で脅したり、宗教の異なる近隣の国同士が相変わらず衝突して戦争に発展しつつある事態が起こっています。合衆国の大統領選挙では、保護主義を掲げる独裁的なキャラクターの再登場となりました。国内の政治では、金銭をめぐる不祥事から、第一党が大きく議席を減らして不安定な政権運営を余儀なくされそうです。温暖化による気候変動も、世界・国内情勢も人間の奥底にある利己主義が根底にあって、不具合や軋轢を生んでいるとも考えられます。それぞれの立場で、言い分はあるでしょうが、解決にはほど遠く、迷宮に入りこみそうな気配です。いつのまにか平穏な世の中とは、言えなくなってきた今日この頃ですが、日常の生活は滞りなく進めていく必要があります、特に医療はいかなる場合でも、安定を求められています。

実際のところコロナ後の患者数減少からどこの病院も採算がとりにくく、働き方改革もあって医療者の自己犠牲に頼りきることも難しいことから、安定を維持するには厳しい面は確かにあります。しかし、そもそも医療は、利益を追求するよりは、患者の病状の改善や回復を第一に考えるのが使命です。「悪事を己に向かえ 好事を他に与え 己を忘れて他を利するは 慈悲の極みなり」とは、最澄が「山家学生式」の中で述べた言葉で慈悲心を説いたものです。医療者の仕事が、最澄が言うように他人の幸せを図る方向にあるのは、我々にとっても幸せなことであり、利己主義が見え隠れする昨今において

せめてもの救いであろうと思います。原点に立ち返って、この一年も私どもの医療を必要とする人のために貢献できるように、職員一同力を合わせて努力いたします。

さて、国立病院機構奈良医療センターは、呼吸器疾患、神経疾患を診療の中心とし、奈良県における「面倒見の良い病院」としての役割を担っています。すなわち結核、神経難病、重心などセーフティーネット系医療に加えて、呼吸器内科診療、てんかん、機能脳神経外科、発達障害（小児神経科）など専門性の高い分野の治療を行います。結核患者は少なくなってきたとはいえ、奈良県内でも発生し続けており、県内唯一の入院治療ができる病院としての存在価値はますます高くなっています。重症心身症（重心）や筋ジスなど神経難病についても県内では数少ない専門病院の1つです。2024年4月から、てんかんセンターにおいて、てんかん外科を始めており、難治性てんかんに対して開頭手術やDBS（脳深部刺激）手術、VNS（迷走神経刺激）手術を行っています。てんかんに関しては小児を含め、内科的治療から外科的治療（小学生以上）まで全てを行うことができるようになりました。さらに専門的な医療の他に地域医療においても、一定の役割を果たそうとしています。地域医療連携室は、近隣のクリニックや施設などからの問い合わせに対応できるように19：00まで電話対応を延長しています。奈良県総合医療センターと奈良県立医科大学付属病院に救急患者が集中することから、急性期から患者を下り搬送や転院で受け入れ、継続治療や急性期リハビリテーションを行っています。引き続き急性期の病態を落ち着かせ、回復期リハビリテーション病院や療養型病院、施設、在宅へ帰すことが当院の役割です。特に奈良県総合医療センターは、直線距離が数百mと大変近いことから、緊密に連携して患者の治療にあたっており、当院での治療中の病状変化によっては、すみやかに上り搬送を受け入れてもらうこともあります。

奈良県内の病院は中規模の病院が多く、かつてはそれぞれの病院において手のかかる治療は医師が体を張ってでも行っていましたが、これからは県全体規模での分業の時代だと思います。設備や人手のかかる治療は大きい病院に集約し、まわりがその前後を受け持つというように役割を分担し、県全体の医療が連携・協力し合ってがっちりスクラムを組むことが必要です。連携のためのIT機器もさらに発達すると予想されます。奈良県の医療がよりよい方向に向かうこと、それに世界の戦争終結も祈念いたしまして、一年の最初のご挨拶とさせていただきます。

部門紹介

照射主任 阪本 博之

放射線科



全員写真（MRI検査室内）

当院の放射線科は放射線技師 7 名（非常勤 1 名含む）で、全員が経験年数 10 年以上とベテラン技師が在籍しています。

放射線科の機器構成は、一般撮影装置 3 台、X線TV装置 2 台（DR・Cアーム）、マンモグラフィ装置、骨密度検査装置（全身型DEXA）、CT装置 2 台（64・80列）、MRI装置（1.5T）、ポータブル装置 4 台、外科用イメージ 3 台と技師数よりも多い装置を備え、日々の業務を行っています。

業務内容は、放射線機器を扱い、診断に必要な画像を提供することですが、特に近年CTとMRI装置等が刷新され、当院の病院機能である“呼吸器疾患と神経疾患を中心とした「面倒見のいい病院」”の目標に対応できる画像提供が可能になったと思います。従来から当院には読影医が不在のため、奈良県立医科大学付属病院の放射線科にて遠隔読影を行っており、質の高い読影結果を提供しています。

当科は画像の提供だけでなく、神経根ブロックによる疼痛緩和や嚥下造影による機能評価等、医師を中心に多職種が連携して検査を行っています。また、感染症に対して、一般撮影装置とCT装置各 1 台ずつを感染症患者専用とし、現在は新型コロナウイルス感染症および結核等の感染症に対して、今後発生しうる感染症も含めて感染症診療への対応検査も行っています。

人数は少ないですが、日々元気に業務をがんばっています。にぎやかで明るい放射線科をこれからもよりしくお願いいたします。

六条ふれあい祭りに参加しました (開催報告)

専門職 山中

令和6年10月13日（日）奈良市立六条小学校で開催された六条ふれあい祭りに当院が参加しました。

当院は展示ブースとしてスペースをお借りし、祭りの救護所としての役割と、血管年齢測定、医師相談、看護相談、栄養相談を実施しました。

当日は10月とは思えない炎天下のなか、たくさんの方が来られていました。当院の血管年齢測定では100名弱の方を測定しました。

開会のあいさつから始まり、奈良県警察音楽隊による吹奏楽演奏、Odonata（和太鼓演奏グループ）による和太鼓演奏、万年青年クラブによるグランドゴルフお試し教室、ホールインワン大会、主催者（イベント部会）によるサバイバルクイズ大会、最後に、お楽しみ大抽選会が行われました。体育館のなかでは、なぎなた演武、ギターマンドリン演奏、ヒップホップダンス、バイオリン演奏、少林寺拳法演武が行われました。

気温30度近い夏日ということもあり、1名熱中症のような症状で倒れた方がありましたが、すぐに当院スタッフが対応することができ救護所としての役割を果たすことができたかと思います。近年の異常気象ともいえる気候を考えると開催時期、時間の検討が必要かと感じました。





国立病院総合医学会



第78回国立病院総合医学会を2024年10月18日（金）～19日（土）に参加しました。

学会のテーマは「進化していく病院であるために～心理的安全性の高い組織づくり～」となっており当院からも多数の職員が参加しました。また、院内でも発表者の本番に向けた予行及び院内の知見向上の取り組みとして予演会を開催しました。





クリスマスコンサート

患者サービス向上委員会



今年は12月25日にクリスマスコンサートを開催いたしました。多くの患者さんやご家族の皆様に来場いただき、客席は大賑わいでした。

オープニングの院長先生によるピアノ演奏は、サンタクロースの衣装に身を包み、クリスマスソングのメドレーを披露してくださいました。ピアノの演奏に合わせて看護師の皆さんも素敵な歌声を聴かせてくださり、患者さんやご家族の皆様も一緒に口ずさんでおられました。京西中学校のギター・マンドリン部の皆さんの演奏は聴きなじみのある曲が多く、柔らかい音色にうっとりしながら楽しみました。司会からのアンコールにも快く応えて下さり「ふるさと」を演奏してくださいました。職員有志のギター弾き語りは、懐かしい曲目に手拍子をしながら聴き入る方が多くおられました。

終了後には、「楽しかったよ」「ありがとうございました」とたくさんの方にお声掛けいただきました。これからも患者さんやご家族の皆様が少しでも心安らぐ時間を過ごしていただけるようなコンサートを企画していきたいと思います。ご来場くださった皆様、出演してくださった皆様には心から感謝申し上げます。



上本町ふるえと頭痛・脳神経クリニックを開設して



上本町ふるえと頭痛・脳神経クリニック

院長 平林 秀裕（奈良医療センター 名誉院長）

今春、奈良医療センターを定年退職いたしました。在任中は、県内の多くの関係機関各位、職員の皆様方のご厚情を賜り、心より感謝申し上げます。さて令和6年5月から、機能的脳神経外科医40年の経験を生かして“上本町ふるえと頭痛・脳神経クリニック”を開設いたしました。

当クリニックは、

- 1) ふるえや頭痛など広く脳の病気に悩む患者さんのコンシェルジュでありたい
- 2) 地域の皆様に信頼され、皆様の健康維持・増進に貢献するクリニックでありたい

理念をかかげ、「ふるえ」をきたす代表的疾患である本態性振戦やパーキンソン病、その他不随意運動疾患（ジストニア、舞蹈様運動、ジストニア、アテトーゼ、バリズム、ミオクローヌス、チック）、てんかん、脳卒中後の痙縮、難治性疼痛、頭痛など、広く機能的脳疾患に悩む患者さんの診療を中心に、脳卒中の原因にもなる生活習慣病の指導やインフルエンザ・コロナワクチンなど感染症対策も含めたトータルヘルスケアを提供し、併せて地域医療に貢献することをモットーとしています。

特徴的な診療としては、脳深部刺激療法の調節、ボトックス療法、バクロフェン髄注療法の調節を行っています。てんかん診療では、専門医による最新の抗てんかん薬を含めた最適な薬物療法や外科的治療適応の提案をさせていただきます。

本態性振戦、パーキンソン病、てんかんなどの患者さんで、手術が必要と判断されたときは、奈良医療センターや大阪市内の他施設と連携し、退院後の管理も、これらの施設と連携しながら行っています。高次脳機能障害の患者さんも、奈良医療センターのリハビリテーション科の臨床心理士さんと連携をとるなど、当クリニックだけでは対応困難な事例に関しては、積極的に他院との連携を進めています。

また国民の4,000万人以上が悩む頭痛診療においては、トリプタン製剤のみならず、最新のCGRP関連抗体製剤の投与を実施し、劇的な効果を上げています。

脳の病気に悩む人に笑顔が戻るように、そして脳を病気から守るために、これからも微力ながら貢献していきたいと思っております。



上本町ふるえと頭痛・脳神経クリニック

〒543-0001 大阪府大阪市天王寺区上本町5丁目2番12号

電話：06-6777-3757 FAX：06-6777-5116

e-mail：info@ufz-clinic.com

<https://ufz-clinic.com/>

独立行政法人 国立病院機構
奈良医療センター
地域医療連携室

〒630-8053
奈良市七条2丁目789
TEL.0742-45-4591（代表）
TEL.0742-45-1563（直通）
FAX.0742-45-4901（直通）